



《研修理事企画研修》

◆会場：ウインクあいち

◆企画：研修理事

協会では毎年恒例となっております、名古屋市介護サービス事業者連絡研究会（名介研）と共催の『医療と介護をむすぶ地域連携部会』を開催しました。早いもので、この共催研修を実施して今回で10年目を迎えます。今回は初めて、企画段階から双方の研修担当者が顔を合わせて検討し合い、共同運営を行うなど新たな試みにて開催されました。

来る2025年には65歳以上の高齢者人口が3,600万人を超えると見込まれており、地域包括ケアシステムの構築の為には、より一層地域における医療・介護の連携が重要になっています。

その為、講師には国際医療福祉大学大学院教授の武藤正樹氏をお招きし、ご講演いただきました。

合計86名の方々にご参加を頂き、医療介護連携に対する皆さまの関心の高さがうかがわれました。



H29年3月25日（土）13:30～16:30

テーマ/講師

『2025年へのカウントダウン 地域医療構想と地域包括ケアはこうなる』

/国際医療福祉大学大学院教授 武藤 正樹 氏

講演とグループディスカッションの二本立ての内容で開催しました。2025年に向けて、私たち医療福祉業界の相談援助職が、地域で求められている事は何か、何をすべきか、何が出来るかなどなど、色々な事を考えさせるような講演内容でした。

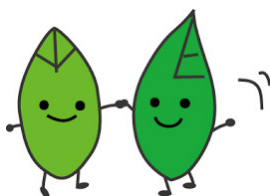
参加者の皆さまからは、「今の時代の流れと、医療・介護・地域ケアシステムの変化、今後の報酬改定までの道すじが分かりやすく聴けた。」と、大変好評をいただきました。



【武藤先生の講義】



【MSW&CM 合同ディスカッション】



そのあとのグループディスカッションでは、“退院時支援の課題と情報共有”についてテーマをしばり、両会員が双方の立場から意見を交わしました。「それぞれの生の声が聴けて良かった。」「内容が具体的に良かった。」など多くの参加者が満足のいく内容のようでした。



【グループ発表】

同じ地域のみならず、地域を越えた医療機関・介護サービス事業所の相談援助職同士が相互理解を深める大変良い機会になりました。

【記載者：研修理事 石橋卓治】